京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲繫報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

南北正閏論と久米博士

●嚢に博士久米邦武氏は史學者中卓越せる識見を有し世の謬論を排して乾燥淡俗の意業に立つの士なり、氏曾て教鞭新田口博士等の編輯に係る雜誌史海に「神道は祭天の古俗なり」てふ一文を掲げ、狹量なる神道家連の激怒に觸れ批難攻撃交々至り終に氏は帝大教授を罷むるの餘儀なき事とはなれり、如此四面楚歌の中に立ちて氏は猶毅然として其所説を枉げず俗世と相容れざるも更に意とせざりし其識見は俗世に媚び諂ふことをのみ努めつゝある學者に比して遙かに人物の高潔なるを想はしむ、現今氏が歴史家として重きを成せるも亦所以なる哉。

●現時政治家學者教育家の間に一大問題となりたる南北朝正閏論に關して頃日久米氏は「大義名分と正統論」と題し議論を列ねたる大論文を發表せり、吾人之を讀むに論旨整然一々肯綮に中り引證該博宛ら快刀亂麻を截るが如し想ふに紛糾せる難問題も氏の此論文に因つて遠からず解決を見ることゝならん吾人は斯る問題の爲めに兄弟牆に鬩ぐの愚を演ずるは國家の不利益なることを思ふの情や切なる者なれば、玆に久米博士の所見を公にせしを歡迎すると共に其論旨の要領を紹介せん

●博士は緒言冒頭に「近頃我北朝に關して正統論が起り古い儒學說に雷同して畏き皇室の御上に就き浮躁輕薄なる批評裁斷を下したる論が追々新聞などに見ゆるが是は如何にも不謹愼極まることである」と先づ正閏論者に對し輕躁なる論議をなすべからざるを諭せり、此一語は確かに博士の如き識見高き人にあらざれば爲し能はざる所、世俗に曲ねる學者や徒らに慷慨激越の議論を唱へ其名を賣らんとする者に一大痛棒を加へたるものと云ふべし

●正閏論者が第二の利器として引用せる「名分大義」に就て博士は先づ其原義を究めざる可からずとなし「名分」の起原をば洪範中に探り高等批評低等批評の二に分ち可なり親切恰かも教師が生徒に教ゆるが如く極めて平易に至つて精緻反覆說述せり、其引例の俚耳に入り易き達し博士を措て他に其數無かるべし

●春秋左氏傳中石碏が衞の桓公を殺して立てたる公子州吁及び其黨與たりし我子石厚二人をば奇策を用ひて陳王に殺害せしめし所爲を賞し「大義親を滅す」とは此謂なり」と錄せり之れ即ち大義なる語の因て生せしものなりと博士は言明し、附け加へて曰く「此の如き大事に臨んで此の如き立派なる處分をなし得らるゝのは凡ての猶凡ての義理に十分明かであつて後の事である唯人の家などに雷同し徒に大義大義といつた處で眞の義理其者の研究がなくては駄目である」と盲論者を一喝したるは頗る痛快に覺ゆ。

●次に博士は正統閏統の原義を明らかにし其源を孔子の春秋學に發せしものなれば我日本に當て嵌まらざるものなり之を所因なく我日本の學者が眞似んとするは即ち謬說なりと誨へ以て議論の枝葉に走るの愚を戒め更に進んで博士の所見を吐露せる旨周到と云ふ可し（未完）

北朝鮮漁場有望

●東洋捕鯨會社山田桃作氏所有に係る朝鮮慶尙北道迎日灣大敷漁業は昨年二ヶ年網場の非常なる好成績を舉げしを以て本年度は左の諸氏をして一ヶ所宛經營せしむる事となし廿日之れに關する契約を締結せり尙ほ各種雜魚類は滿船を以て運搬する事に申合せしたりと

一號網場阿邊七之助△二號網場平田平九郎△四號網場阪本七五郎△五號網場里見萬吉

大阪に於ける朝鮮米騰昇

●大阪地方面の呼聲益々高く殊に臺灣米の割高にて一般の需用も自然同米に集注せんと樣あるなど內地米の成行面白からざるに拘らず昨今漸次引締りを告げ石米の如きは十三圓七十五錢の高値を現はすに至れり殊に産地中盤も强硬なるは木浦方面にして同方面は昨年新穀當時の安値時代に海外輸出宛として無暗に先約賣ひをなしたる釜山市場の商人が渡し期日の切迫せるに現品攔はざるより止むなく木浦方面にて盛に買ひ付けをなし爲に朝鮮中木浦方面は寧ろ品薄の傾ありと因に大阪市に於ける朝鮮玄白米相場は左の如し

▲白米の部	
△特白	一六〇〇
△釜山上	一五三〇
△釜山中	一四九〇
△釜山並	一四五〇
△群山上	一五二〇
△群山中	一四七〇
△群山並	一四三〇
△仁川上	一五〇〇
△仁川中	一四六〇
△仁川並	一四二〇
▲玄米ノ部	
△改良馬山浦	一四四〇
△釜山上	一四〇〇
△釜山次	一三六〇
△木浦上	一四〇〇
△木浦次	一三五〇
△群山上	一三四〇
△群山次	一三一〇
△仁川上	一三九〇
△仁川次	一三五〇
△南浦上	一三五〇
△南浦次	一三〇〇

●遠海漁業者の移住

愛媛縣南宇和郡西外海村內泊小澤虎一外二十三戶總員九十三名は遠海漁業の爲め一家を擧げて朝鮮慶尙南道へ移住するに決したるより遠海出漁團體聯合會は廿二日移住者全部に對し渡航費補助として金六百圓を交附せり

●標識所燈火變更 仁川港朝鮮總督府航路標識管理所屋上に點火せる試驗燈の燈火は白色を常とするも本月廿五日より隨時紅色又は綠色に變更する旨告示ありたり

外事一束

▲葡國 首都理斯本發電報は又々葡萄牙國內に暴動再燃し共和政府の力にては民心の不滿を一掃する事不能近く大變動起らんとて到處人心恟々を報ず。

▲苦心 葡國共和政府は暴動鎭壓に苦心し大統領ブラガは此際出來得る限り速に政府の永久策を講ぜん爲多分瑞西の行政組織採用州に自治制を布く筈也。

▲土國 政府は目下サロニカに幽閉せられ居る土耳古廢帝アブタルハミット二世に附したる監視人交代を行ひ其人員を二倍增加廢帝に對す警戒益嚴密。

▲米國 大統領タフト氏は米加間の關稅を低減したる互惠條約を承認する爲必要なる場合には臨時議會を召集せんとの意を非公式に宣明したりと云ふ。

▲英國 大藏次官は下院に於て前年度二年間の剩餘二百九十七萬磅の豫算に對し現計四百三十萬磅又所得稅も增收せりと數字を擧て財政艱潮を言明す。

▲滿足 摘國政府より露國に致せし回答に就て北京駐劄露國公使は極めて滿足の意を表し尙將來兩國政府の友情關係を一層圓滿ならしむ事を希望せり。

▲揚言 墨西哥叛徒の首領マデロ言ふ所に據れば小部會は悉く叛徒の手に占領したれば從是軍器一投官軍を窘束せんと意氣旺盛果して揚言の如き乎。

▲公債 英國倫敦株式市場に於ては露國淸國間の懸案問題が圓滿に解決せらるべき報に接するや露國公債の景氣頓に良好に向へりと是れ當然の事なり。

▲獨領 ガロリン群島中の叛徒に對し獨國濠州艦隊は强烈なる征伐を加へ其陣地を陷落せしめたるが尙叛徒一撮の爲陸戰隊を上陸せしむ不靜近からん。

召使お初

黑法師

（二の十）



佐十郎が急き足に破れたる門を出でんとする時、谷の戸出づる鶯よりもまだ美しき聲は聞こえて、お道は後を逐ひ掛け出でぬ。

『お兄さま、お兄さま』

門の敷居を一歩跨ぎたる佐十郎は、

『らいく心が急く、用あらば次に爲』

お道の聲を聞きて振り返りぬ。

『お兄樣には、上げたい物ござります、お兄さま銀子でござりませいでは、御一分が立たぬではござりませぬか』

『そなた、伍一什を聞いたか』

『恐れながら次の間で……』

『聞いたとあれば改めては云はぬ、今日までの不孝不道、お父樣お母樣に對して御詫び致さう詞も無い、其處へ又銀子の御無心、お聽き入れ無きは當然ぢやが、まこと身を切るやうの入用、苦しい羽目に落ちて居る。

『そのお銀子、何れほどお入用でござりまする喃』

『一分もあれば澤山であらうと存ずる』

『お兄さま』とお道は悲しげに呼び掛け、私兄上はあなた樣お一人、兄上妹は私一人、お父樣お母樣お子といふては、天にも地にもお兄さまと私との外ございません、その中でもお兄さまはお世繼、お父樣もお母樣も、お兄さまお一人を杖柱と御賴みませあらするは申すまでもござりませぬ、そのお兄さまを御勘當とのお詞、鋭うお叱らせの御目の中に、淚含みてあらせたをお心付き遊ばさぬ事無いでござりませう喃』

『そなたの心に愧ぢる、恕せ』

『これはお祖母樣お紀念、私の手にある物とては、此外に何もござりませぬ』

と、お道は懷より彼の櫛笄を取り出して、

『御覽せても分りまする、私の淚、お母樣の淚、それに他人の淚まで、この蒔繪の上に沁み入つてござりまする、私身に取り命にも替ね難い大切の品でござりますが、お兄さま一分には替ねられませぬ、銀子の爲めにお身が立たぬことあつては、お兄樣お一人の御恥辱でも濟みませぬ、由て私異ぞ籠めて、これをお貸し申しまする、お間に合ふでござりませうか喃』

『さらばこれを……』と流石の佐十郎も聲を濕ませ、私に貸してたもるぢやの』

『これにて一分御立て遊ばされた上、お父樣へお詫び、きつと御孝行を遊ばしませ、道のお願ひ、お聞き屆けござりまするか』

實にお道の心の美しさは、庭の櫻の美しきにも優りて見ゆる、佐十郎は兩手に妹の情を受けて、其上へ熱淚の露一滴。

『忘れはせぬ、嬉しう思ふぞ』

『お兄さま、きつとお忘れござりまするな』

『家を外に放浪、御二方へ不孝を盡すも、我等心から致すで無い、これには深い仔細もあれど、今物語る猶豫なければ、何事も後日の沙汰、そなた命を暫時借りる』

『その品がお間に違へば、草葉の蔭に在らせられるお祖母樣も御滿足、私も歡び、明日にもお歸りを待ちまする』

『明日とは云はぬ、遲くとも今夜歸つて、お父樣へお詫をする、後の事賴み置くぞ』

兎角する程に日は落ちて、夕陽の蔭薄れ行く屋敷町を、佐十郎は足早に過ぎぬ、お道は門の柱に身を凭せて、見るともなく兄の後を見送る面に、ひらくと散る花びら冷たく、青松寺わたりの鐘の音、緩く風に傳はり來る、折からお道の前に立ち止りて、慇懃に腰を屈めながら近寄り來る年若き女ありき。



東京電報（廿四日）

▲日米條約調印

商中なりし日米新條約は廿一日華盛頓に於て内田大使と國務卿ノックス氏との間に愈々調印を了せる旨通報ありたり

▲追加豫算通過

二十四日午前十時貴族院豫算委員總會を開き去る二十三日追加豫算第二案に就き各分科會調査の結果を報告し二三の質問應答ありしが結局原案通可決せり

▲宇佐川中將の豫備 宇佐川男爵は陸軍中將の現職を帶びて東拓副總裁の職にあるが愈々來る十月を以て豫備役に編入せらるべしと

▲森槐南氏危篤

今回博士會議に於て文學博士に推薦されたる森槐南氏は病氣療養中なるが目下危篤に陷れりと▲和田垣博士 日英博覽會の事務官として渡英したる和田垣氏は昨日歸朝したり

▲國民黨の除名問題 國民黨の木下一派に對する除名問題起れり

●總督邸の午餐會

山縣政務總監は二十五日午後一時より總督邸に北里博士を主賓に明石警務總長、藤田醫院長、宇佐美内務部長官、小松外事局長、小原地方局長、鈴木事局長、大西警察監、山根囑托、國分、小城、奥貫の各技師、高階軍醫正、大庭府尹、桑野警務官、古城民長、藤波通譯官、古城京城警務部長を招待し午餐會を開き席上山縣政務總監の挨拶に次で北里博士の防疫上の意見陳述等あり午後三時散會したり

●北里博士の動靜

滯在中なる北里博士は二十五日午前九時大觀亭に大久保軍司令官を訪問し次に總督府に山縣政務總監を訪問し藤田院長の案内にて總督府醫院を參觀し正午總督邸に於ける午餐會に臨み夜は京城ホテルに於ける官民有志の催す歡迎會に臨む筈なり

●北里博士の退京 北里醫學博士は廿六日午前九時南大門發車歸東すべし

●寺刹令發布期

朝鮮に於ける名刹古刹の保存に就ては其筋に於て夫々綿密なる調査進行中なるが聞く處によれば屢々報道せられたる如く遂に發布の運びに至るべく決定に就ては更に内地の法規を以て律すべからず即ち半島の風俗習慣と其信念如何に關みりて之が爲めに民心の動搖を生ぜしむる事あらば寺刹に關する點に於ても一般思想界に多大の影響あるを以て慎重なる考慮を要すると共に割合を以て發布せらるべしと聞く

●種牡牛の配布

朝鮮に於ける南部の牛は之れを北部のものに比すれば優小なるより農商工部に於て改良の目的を以て昨年度も北部の牛を南部に配布したるが來月よりは又々同一の方法にて九十頭を配布すべき筈にて其の場所は京畿、忠淸、慶尚道にして當該道廳は巡回に預けて改良を謀る由

●慶南の恩賜林會

慶南 今回總督府より下賜の恩賜金を浪費せずして永久に記念たらしめんとの趣旨を以て地方產業發展の一端に資せんと受賜者一同協議の上共同して恩賜林會なるものを組織せしむる事となり其規約の要領を聞くに左の如し▲恩賜金下賜の恩典に浴したるものを以て組織す▲各自賜金の十分の二を以て元來の組織を爲す▲郷校附屬の四十町歩の草山を恩賜林とし以て植樹す▲郷校直員をして保護せしむる事▲成木は三分して七分を各自の出金高に應じて按分す▲毎年春秋二期に恩賜林會を開き植樹の實況を視察する事 一、恩賜金の保管及監督等は郡守の指揮を受くるものなりと

總督府中學現狀

校長隈本有尚氏談

朝鮮總督府中學校は新學期に於て百四十名の入學を許す筈なるが今同校長の談に曰く

現在の學級 は三學年まで引續きを受け僅かに一年なれば未だ成績の良否を論して各學級に於け

現在生徒 は一學年百〇八名二學年六十九名擔任教諭三名擔任教諭一名なり之に關する職員數は校長書記二校醫一屬二なり

生地別 にすれば九州七十二名二十四名中國三十二名にて以下は關東北に屬し、内鮮人二名あり一名は朴泳孝侯一名は尹致昕氏の息なり共に課程を了へ成績最も佳良なるを見る又之を

朝鮮人の職業別 にすれば官公吏八十二名軍人軍屬五名醫業五名辯護士一名銀行會社十三名學校教師七名商業五十六名農業四名鑛業二名神官僧侶三名請負師八名宿屋二名職工五名料理業二名無職八名雜業七名なりとす

▲其所要學費 は之を母國に比すれば防寒上被服類に於て幾分の差あるを免れざるが其他に在ては毫も輕重なきが如し茲に各學年に別ち所要經費を計算せば

級別	經常費	臨時費	合計
一學年	三二、四三〇	一〇六、九五〇	一三九、三八〇
二學年	五二、九二〇	七一、四五〇	一二四、三七〇
三學年	三二、九二〇	九七、九〇〇	一四五、八二〇

右は則ち通學生を標準とせるものにして食費は其以外なりと知るべし

▲地方通學別 の現在は龍山二十八名仁川二十一名永登浦一名水原二名新義一名其他は全部京城なりと而して寄宿舍制度の設けあるも未だ其設備完成せざるを以て目下の處にては總べて通學生のみなり又以上龍山京城以外の通學生は多く汽車通學に屬せり

▲殖民地の缺點 として特に著しきは父兄の轉任異動に伴はれて學年の半途に於て去來するもの頗る多き事是なり又更に忌むべきは依**賴心の弊風**にして此傾向は學業の進步發達上至大の障害を釀もすべきを以て**各父兄の注意**を望み苟くも**家庭戒飭**を怠るべからず一方又殖民地の缺點として注意すべきは學校以外に恰當の私塾なき爲め自宅勉學を爲し能はざる事是なり隨て一たび學校の門を出づれば悠々徒過し復習を怠るもの々如し故に是等の點に就ては嚴に父兄の督督を煩はし**救濟手段**として其**獨習を勵精**せしめざるべからざるなり又能く世上多くの學校中には**校風を誇る**ものあるが如きも予は何等之に重きを置かず則ち不言實行を主とし印象的に國家有要の材を養成せんと欲す而して如何に校風を嚴定し之を鼓張するも**教員其人**にして**適材**を得ざれば毫も效果なきを確信す然れば模範的教員を選定するは予の希望にして此以外他に策なきなり尤も此點に就ては總督府に於ても同一方針也と信ず

●地方局長の巡視

小原地方局長は來る二十七日より三月二十二日まで一十五日間の豫定にて各地を巡視すべく同日午前九時南大門驛發列車にて出發する筈なるが第一日は太田より順次公州、江景、群山、全州、裡仁、郡、木浦(十一日)釜山、馬山、咸安郡、晉州地方を巡視し更に咸安、馬山を經て二十二日南大門驛着列車にて歸任すべし猶は同内務部各課長も各地の巡視に趣く由なり

●總督邸防疫會議

二十五日午前十時半山縣政務總監は北里博士、明石警務總長、山根囑托、藤田總督府醫院長の來訪を機として總督邸に臨時防疫會議を開き北里博士の滿洲ペスト狀況報告に次で朝鮮に於ける今後の防疫方針に就き協議する處ありたり

●北里博士歡迎會

二十四日入京の北里醫學博士歡迎會は昨二十五日午後四時より京城官民有志の發起にて京城ホテルに於て開催せられしが刀圭界知名の士の事なれば出席者極めて多く席上博士は鼠疫に關する有益なる講話をせられしが其詳細は次號に報道す

●隈本氏送別會

前學務課長隈本繁吉氏今回臺灣國語學校長及視學官として同地へ赴任せらるゝに付朝鮮教育會及び官民重なる者の發起により氏の送別會を廿四日午後六時京城ホテルに於て開催せり會する者官民有志教職者教育關係者等内外人其數百五十名餘宴酣にして宇佐美内務部長官の一同を代表せる送別の辭あり次に隈本氏答辭を述べ後土地調査局副總裁の發聲を以て一同杯を擧げて隈本氏の健康を祝し散會したるは午後十時なりし因に朝鮮教育會及教育關係者は同夜氏に贈るに**記念金盃**を以てせり

●東拓漁業權を失ふ

西海岸に於ける鮟鱇網漁業權は從來東拓會社の所有として主張せられたるところなるが右は今回長崎外三縣漁業組合の主張正當なりと當局者の認むるところとなりたるを以て從つて東拓は右漁業權を失ふに至れり

●東拓移民規則改正

東洋拓殖會社の移民規則一部改正の說ありしが右は愈々廿五日總督の認可さる

●大阪製產品博覽會

大阪販賣業會にて來る四月一日より五月三十一日まで二月間本邦並に其の領域内の製產品を蒐集陳列し斯業の發達を圖らん爲め第二回製產品博覽會開催の計畫を爲し該會長より出品勸誘方農商工部に依賴し來れるが出品希望者は京城府若くは京城日本人商業會議所へ承合せらるべしと

●民團民會委員會

所報の如く京城民會の本會議は一と先づ結了せしも未了の議案に付き二十五日午後二時より民團樓上に於て委員會を開き又本日は日曜日にも不拘、同じく午後一時より第一號案（居留民團稅則中改正）第四號案（居留民團汚物掃除例賦課徵收規則廢止）に付き引續き開催の筈なり

●合併後の龍山

京龍民團の合併施行せられし際は恰かも年度の半途に在りし爲め現行稅法は其儘本年三月末日迄襲用する事となり隨て龍山市民は何等稗益なかりしが愈々四十四年度より始めて實質上京城と權衡を保ち之が爲めに其負擔額に於ては同地市民は約一萬五千餘圓の輕減を見るべしと云ふ

韓銀前期成績

廿四日市原韓銀總裁が總會の席上報告せし演說要旨左の如し

季初は前期大水害に次いで政變を氣構へ市況一般に沈衰せしも蠶盆節季に入るや米價上騰の豫想に驅られ人氣稍々回復を見るに至りぬ而して併合の盛事は大に民心を安堵せしめ賜金減稅の恩典あり一方に於て國庫制度の變更を來し彼是相待つて金融市場の繁忙を見たり貿易の大勢は米豆等の價格騰貴の結果稀有の移出を促し棉花の栽培不作なりしも何等影響なく却つて順調に經過せり斯く各方面に於ける好現象は地方農民の購買力を振興し移入も亦頗る增進せるを見る要するに當期は前半に於て金融甚だ閑散を極めたるも後半に入りて大に活氣を呈せり隨つて銀行券の發行に見るも之を前季末に比すれば六百九十萬八千九百圓を增加し更に之を昨年末に比するも六百七十二萬四千二百圓增加せり就中一圓券は鮮民の需要を增し總額七百七十万四千五百萬圓に及べり而して併合當時は北方に在て一二の流言蜚語行はれ多少流通を妨げられたるも民心靜穩と共に目下極めて圓滑の狀態に在り貨幣整理事業は略終了に近く季末補助貨の發行高は之を前季末に比すれば實に四百七十九萬五千九百五十圓の增加を示せり是れ舊貨の引上に伴ひ新貨の益々普及せる爲めにして一は亦併合後の豐作に依り新穀の出廻盛況を極め通貨の膨脹を來したる結果に外ならず產金買入の業務は朔州及元山方面の砂金產出多量なりしより之を前季に比すれば成貨額に於て五千一萬三千四十五圓餘を增加せり國庫事務は併合の結果總べて帝國政府の會計に移屬し九月三十日に於ては其の取扱高現在九十六萬七千四百八十七圓なりしもの本季末には三百十二万二千六百三十六圓餘に增加し金庫事務の繁忙名狀すべからず而して金庫制度變革の影響如何を見るに豫期は預金制度なりしを以つて例年秋期出穀時期に放出したる買出資金は納稅となり再び預金に回收せられしも當季に於ては納稅は悉く金庫の現在高となり流用の餘地なきに到れるを以て特に資金補充の方法を講じ金融界の趨勢に適應せしめたり之を要するに當期金融の狀況及び當行業務の大要は前述の如くにして合邦と共に當行は帝國の法人となり朝鮮金融の中樞として殖產業務の經營に努め財界の事情亦良好なりしが預金殊に貸出は前期に比し多大の增額を見るに至り一方支店の設置其他に相當經費を要し又創立費の消却をなしたるも其損益計算に於て幾分前期に優るの利益を收むるを得たるは聊か欣快とする處なり

●外國新聞電報取扱局

今回遞信省告示第二〇五號を以て朝鮮に於ける料金受信人拂外國新聞電報を取扱ふ通信官署を左の如く指定されたり

京城郵便局 西大門郵便局 仁川郵便局 光化門郵便局 平壤郵便局 元山郵便局 釜山郵便局 清津郵便局 城津郵便局

●民會雜觀（廿四日）

前回未了の建議案二件を議題として再開▲提案者高橋君堂々たる長髯を振つて市區改正の急務と國庫支辨の當然なる所以を論ず次いで種々雜多の質問が十人十色に向つて來るを夫れを造作もなく答辯して退ける實に垢拔けたものだ▲何と云ふも高橋君の議論は大き過ぎて困るとは一議員の述懷夫れかあらぬか正面から反對を敢へてするものはないが唯だ主意は好いがと躊躇するものが多い好過ぎてはしないか▲質問者の一人大百君曰く高橋君は前代議士で既に國政に參與した立派の方である故に後學の爲め承りたいが吾帝國の財政は果して斯かる大事業を許すべきや否や而して之に對する總督府の意向をも確めたるか又此建議遂行上民會の權能に依て如何の程度まで運動する積り乎▲何を小癪なと言はんばかりに高橋君突つ立ち大村君は遲刻せし故本員の說明を聽く能はざりしならんとて再び說明を繰り返へし更に大聲怒號して民會の權能如何は曾て民長も勸め更に民團議員を經て來つた大村君にして知らざる筈なし則ち吾々は民會以外に於て何等行動し能はざる故規定に基き民長に對し建議を爲すのみ▲而して聞くが如くんば大村君は近來屢く暮夜總督府官吏の門を敲くと由然れば市區改正に對する官憲の意向如何位は疾くに御承知の筈なるべしと皮肉る▲段々議論に花が咲いて討論終結を怒鳴るものがある尚だ贊成意見があるといふものがある又一方には協議會に付すべしといふものが出るナニ協議會なるものは民團規則之を認めず一刀兩斷廢案すべしと敎ゆるものもある更に大々贊成を表して即決を望むものもある斯く色々の動議が入り亂れた最後に▲中島司馬之助君現はれ何ふも斯んな困つた事は無い大体に於て贊成であるが建議案には字句の修正を許さない然ればとて之を見殺しにするにも忍びない吁々如何にせば宜からんと溜息接ぎつゝ意見交換の餘地を興ゆる爲め暫時休憩を要求した贊成々々の聲三方に起り議長十五分間の休憩を宣す▲氣轉利いたる中島君の此動議其効空からずして休憩中前期帝國議會に於ける政府對政友會の如く圓滿に妥協を遂げ今期帝國議會の夫れの如く遂に情意投合し形式的に前案を撤回して更に新議案提出され▲滿場一致にて市區改正は刻下の急務……而して其施設は政府事業とし……總督府内に市區改正事務局を設置せられたき居留民全体の希望が表白された……終り矣

●仁川の道路修築

仁川京町通りは所謂朝鮮町とて從來道路修理等せぬより雨降りの際には泥濘膝を沒する程の惡路なれば今回民團に於ては同所魚市場前より京城通りに通ずる間を經費の許す限り砂利敷をなすと云ふ

●仁川築港の祝宴 仁川の築港問題も廿日已に衆議院を通過し、正に貴族院をも通過せん模樣なれば仁川築港設備委員會にては一昨夜民團樓上に會合し評議の結果貴族院通過の翌日を期し設備委員會の發起にて民團及會議所員外官民有志にて祝宴を催す由

●藥師川隊長歸任 ペストの防疫に關する地方狀況視察の爲め出張中の京畿警務部長藥師川中佐は來る二十七日歸任する筈なり

●大每特派員送迎會 京城新聞通信記者團は廿六日午後六時より花月樓に於て大阪每日の楢崎、專田の新舊特派員を招待して盛なる送迎會を開く筈

●血精製造所に就て 其の所轄を内務省としたるは農商務省の誤り

▲治外法權▼

最近東京の時事新報社から故福澤翁著帝室論及尊王論の合本一冊を贈つて來た、福澤翁は維新前からの尊王論者であつた、併し翁は彼の高山彥九郎の徒と其撰を異にし極めて常識的に極めて組織的に出來た尊王論者であつた▲翁其著帝室論の冒頭に曰く帝室は政治社外のものなり苟くも日本國に居て政治を談じ政治に關する者は其主義に於て帝室の尊嚴と其神聖とを濫用すべからずと▲亦曰く之を古來の史乘に徵するに日本國の人民が此尊嚴神聖を用ひて直ちに日本の人民に敵したることなく又日本の人民が結合して直ちに帝室に敵したることもなし▲往古の事は姑く擱き鎌倉以來の亂臣賊子と稱する者ありと雖も其亂賊は帝室に對する亂賊にあらずして其利の如き最も亂賊視せらるゝ者と雖も尚且つ大義名分をば蔑如す▲左れば此亂臣賊子の名は日本の法は斯くの如くすべし斯の如くするべからずとて互に其進率の方を爭ひ天下の輿論に亂賊視せらるゝ者は亂臣賊子と爲り忠義視せらるゝ者は忠臣義士たるのみ云々▲次に翁は尊王論の題に於て曰く（前畧）我輩は尊王の要を單に日本國民の性質とのみ云はずして更に一歩を進め經世の要用に於て此大義の等閑にすべからざるを知る者云々▲而して翁は本立論を三に分ち第一經世上に尊王の要用は如何と組織を立てゝ精細に論じた翁の尊王論や前にも云つた如く徹頭徹尾常識的であるのだ、而して此常識的尊王論や彼の神經的なる高山彥九郎の尊王論に優れること萬々であるのだ世人は勤王家尊王家と云へば直ちに神經質な慷慨悲憤の人物なりと想像する而かも失敗した勤王尊王家は多く神經質であつたが、眞に王事に盡した勤王尊王家は何れも智体健全に於ける有爲の人物であつたのだ▲今や南北朝正閏論と共に帝室論の議論が起つた、此際に於て記者は世人に向かつて福澤翁の帝室論と尊王論とを一讀せんことを勸める▲帝國臣民にして尊王の志無き者あらば非國民と呼ばるべき賓だ、併し同時に此時代に於て舊式の議論にのみ固執し、た忠臣にのみ同情を寄するを得居るの輩は日本を中心とせる大帝國の建設事業などには到底與し得ざる代物であるのだ。

公人私人

▲岡田虎輔（技師）旭町一丁目に轉居 ▲入江鎭雄（水產組合監督）釜山に向ふ ▲戶田次郎（帝國馬車會社主任）釜山へ ▲北里柴三郎（傳染病研究所長）天眞樓 ▲鶴見三三二（傳染病研究所技手）同上

▲京龍兩驛の貨客

▲南大門驛乘降客 二十四日分 乘車客 六三五 下車客 七二九 乘車賃金 一一六四、一二

▲南大門驛荷扱高 二十四日の分 發送 一五噸 到着 四九一噸 貨物賃金 九二六、三八

▲龍山驛乘降客 二十四日の分 乘車客 一七四 下車客 一六六 乘車賃金 二五二、八六

▲龍山驛荷扱高 二十四日の分 發送 一 噸 到着 一六五噸 貨物賃金 二六〇、〇〇

●對不備規則決議 民團民會議官委員會を組織し居りしも今回の同意を求めたる結果左の如く決議せ…委員規定の上は議長之を召集し委員…答なりしも政府の容るゝ所とならず遂に現狀維持と決定したりと

▲仁川米豆取引 ●廿五日 月寄り出來不申▲廿二十一錢▲四月寄り三十七錢▲止同上 十五錢▲廿二十錢 前場二月出來不申▲三月寄

▲京城手形交換高▼ 二月 …枚數…


活動寫眞 撮影子

二十五日朝の南大門驛

明け渡る空は瑠璃の如く朝日麗らかに古都を照らす、たゞ春よと胸に叫んで漫歩停車場に入る、待合室には、佐賀縣小城郡三日月村

光岡正行

氏のトランクが見ゆる、抑も氏は十數年以前より既に朝鮮の農業經營に熱中し、屢々朝鮮に來り各方面を視察し、昨年十一月更に渡鮮し

始めて根據地を江景方面に置くに決し

事務所を設置すべく來りしのである、而して氏は第一期の事業として江景方面に於て先づ一千町步の土地を卜し

農作、果樹、蔬菜等の經營

を實行するに於て氏は全資產を投じ子孫に繼續せしむる決心であると云ふ、氏が鋭意の志操堅實なる農業家を送り得た事を光榮とする、更に多數の見送人に擁せられたるは百三十銀行朝鮮總支店事主任

上杉松太郎

氏は博多に出發すべく來たのであつた、農業家と實業家、極めて趣向を異にせる兩者を送る、實に快感の湧くを覺ゆ、常に官紳顯職の人に飾られたる場内は、此の生産的の人物の登場に依て、更に

別趣味

の光明を發揮したのである。此列車は午前九時、釜山行の列車は、南大門を發し午前九時十分、新義州行の列車は、更に同九時十分、北上の煙りを殘した。

古都の朝ぼらけ

晴れて風なき古都の朝ぼらけ、春光漸く熟せんとして、鳥は靜かに飛び去る。寒がすみの夢を捨てゝ行く雁は、花なき里に住みや慣らへる、の古歌を想つた。

●女學生の墮落

元仁川〇〇〇所の書記として數年の勤務中、被服の聞込みあり某氏は昨年の夏頃、京城線は天安の成佐所へ轉勤し轉勤したるが同氏の長女〇〇し子(十八)は仁川女學校に通學なし居に伯父に當る同地本町四丁目〇倉と云ふ方へ預け置き專ら監督をもなし呉るゝ樣と依賴して任地にと出立し只管に子の學業の成るを日を持ち樂み居りしも

十五歲の春

早くも男の味を覺えたる事とは露知らざりし親の欲目か未だツン手氣儘な事も自由に退にして夜遊びによりさし子は自分一

竹園館

宮町は ならぬより伯父の許にふ樣に男を引張込で喜びしもの〜伯父の

雜貨店の二階

を借り親の許へは自炊し毎月仕送らるゝ金女丈夫と成てよ拚ど

男を引入れ

あら

天罰

忽ち報

腹の虫が大

毎月見る物が此身袖にも隱し兼出來ぬ仕義となり遂らるゝに至りたれば許へ傳へければ父のとて關係せし男の定堅めもならず今更詮害の方へ連歸られたしき限りにこそ

退校

●訴訟代理業者橫領 龍山老松町訴訟代理業金澤松吉(四十)は昨城明治町二ノ二六石所持せる南山町三ノ大韓銀行仕拂の小切十三圓の二葉が預金前記小切手の支拂請支拂を拒絕せられた東にて同月二十五日領收し其金額は其後傳吉に渡し他の一葉數次に請取り費消しすど僞り全額橫領し知る所となり縛に就られ目下取調中なり

●懲役一年六ヶ月 島根縣人當時龍山米里太郎が昨年十一月京山富平町二丁目飲怒入り遊客の金百圓計外數點を竊取當京城に來り外數所に於て金品を竊取したる事長野岸兩刑事に探知され事は既報の如くなるが該事件は京城區裁判所に於て懲役一年六ヶ月に處せらる

●執行猶豫の恩典 熊本縣人建部政香(二七)が中の新地元日の出樓藝妓を引出し青坡町鳴戸樓へ前借金三百圓にて住込ませ翌夜共謀逃走せし事件は詐欺取財として檢事局に送られしが京城地方裁判所に於て懲役一ヶ年に處せられ三ヶ年の執行猶豫の恩典を與へらる

●取引中を押へらる 仁川花町一丁目飲食店大黒屋事堤勇吉方の實姉スミ(二二)及び同店酌婦高田スミ(十九)は昨廿五日午前一時警官臨檢せしに兩人共金五十錢宛にて取引中なりしかば早逸三名共拘引せらる

●拾得者は學生 仁川花町二丁目藤永翠之進二男實(一五)は自宅前の道路に於て金五十錢を拾得其の筋に屆出たり感心なる小學生徒かな

●仁川捕鼠抽籤 仁川警察署にては買上中なりし捕鼠今日中に豫定の數に達すべければ廿七日抽籤執行する筈

●仁川捕鼠買上 廿四日二百十七頭にして金七圓五十一錢なり

●横領 大分縣北海部郡上津留村當時本町一丁目八十六番戸代書人衛藤進(二七)は高等商業學校卒業生にして普通文官試驗にも合格し前途見込ある青年なるが代書業に從事中獨身の辛さに遊廓通ひを初めたる爲め業務上預りたる金三百餘圓を横領費消し其の筋に拘引されし事は既報の如くなるが該事件は豫審終決野田檢事の手にて起訴せられ來る三月十日京城地方裁判所に於て公判開廷せらる可しと

●竊盜 仁川京町一丁目石炭商達富某方の軒端に積みありし石炭の内二叺を仁川新昌洞二統八番戸の姜泰逸(三十)竊盜新町の清國人湯屋に賣らんとする所を達富に嗅付けられ其筋に引渡し目下不審の點あれば取調中

●拘留 宮城縣柴田郡村田村千十七番地當時住所不定柳川喜助(三一)が太平町酒幕に於て無錢遊興したる事件は拘留十日に處せらる

日曜集會(十九日)

●京城基督教會 日の出町同教會にては廿六日午前九時より日曜學校同十時より米澤牧師の禮拜說教「嚴正なる信念」午後七時半より同牧師の傳道說教「必然的歸着」ある由

●微笑會例會 初音町二丁目臨濟寺に於ては廿六日午後三時より圓山大嚴禪師の宗門無盡燈論例會提唱あり

●日本基督教會 旭町四丁目同教會に於ては午前九時より日曜學校同十時より平山牧師の禮拜說教「ペテロの蹉跌」午後七時より渡邊暢氏の傳道說教「生命の麪包」ある由

●東拓規則改正案 東拓會社は本期總會に改正案を提出すべき

に現狀維持と決定したりと

●廿四日 前場二月止十五圓七錢▲三月止出來不申▲四月止三十八錢▲後場二月寄り十五圓八錢▲止七錢▲三

春から夏夏から秋

ヘ赤痢、コレラ、窒扶斯ソロ〳〵暖かくなつて來た、ヤガテ暑くなる何うして夫れが判るかと問ふ勿れ、僕は何も六ケ敷い事は知らんのだ

每年

の順序が斯様だから今年も然

の順序

に行く、だらうと思つたから云ふ迄だ▲北里博士は入城せられた惡疫に斃れた死屍爛地の滿洲の野を踏破して、學者としての天職を完ふすが爲めとは云へ寔に感謝の他はない▲伯樂一度冀北の野を過ぎて馬群空しと云ふ博士の足跡を印したるの地遠からずして惡疫のアトを絶つであらう▲朝鮮は幸にも當局の施設宜しきを得て惡疫を鴨綠江畔に遮擊して美事に拒止し得た▲聞く該ペスト菌は寒氣には強いが熱には弱いと、されば追々暖くなり暑くなる今日だから防禦軍の爲めには

天の時

を占め得たものだ▲鴨綠江の解氷期も近付いた我軍は更に

地の利

を占むることゝなつた▲暖氣に向へは身も輕く氣も輕くなる從つて命令も徹底しよう茲に於て我軍は

人の和

をも併せ得る譯である撲滅の期蓋し近かるべしだ▲春になつたやガテ夏となるだらう夏が過ぎれば秋となる順序だペストの方は先づ夫れで安心として去年の苦い經驗がある僕はモウ今から赤痢、窒扶斯や虎列拉が恐くなつた▲自分ながら其の卑怯に呆れざるを得ぬのである(風聞子)

●演藝だより

●歌舞伎座 同座に於ける男女合併劇廿六日の替狂言は前「苅萱石童丸」切「東白浪五人男」尙廿七日の狂言は前「若見武勇傳」切「れ染久松野崎村の段」

●壽座 每夜增客の好況なる立志團廿六日の藝題は「新羽衣物語」全六場、配役は 石沼佐太郎(北村)弟河山(五味)一馬(稻葉)同母(淺井)初ヶ枝兵風(花島)木守秀夫(村山)藝妓萬吉(郡)母れ衣(二三)馬鹿作(寶井)手代岡澤(井上)牢五米入(花浦)宮城菊江(藤島)漁師島造(青山)婆れ虎(上田)村役場太郎(加藤)

尙廿七日は「雪中の竹」全八場にて配役平島雪夫(村山)夫人その(郡)令孃竹子(寶井)佐々木五郎(花島)車夫傳吉(北村)金太(二三)家令黒田(五味)牛島翔義(加藤)侍女こと(花浦)露家令中野淺雪(淺井)熊五郎(青山)同女房(藤島)

●京城座 大入の盛況を呈し居る兄弟劇團は廿六日の藝題「松風村雨」十場にして尙女形として定評ある東新の助入團せし由にて配役は 矢田修一(岩村)綿屋仙吉(花房)美代治(堀江)北浦ノ哉(吉井)杉浦校長(谷)女髮結琴(塚本)乙哉母 臨五郎(松澤)柴田彌之助(藤澤)氷川正之(小泉)幸子(東)下女松 副長三好昇藏(江見)氷川須磨子(新美男)

尙廿七日は「河内十人斬り」十三場配役野村署長(岩村)れ鐵(堀江)彌五郎(吉井)三輪刑事(谷)仲吉次郎(塚本)城戶熊太郎(松澤)若旦那伊三郎(藤澤)勇次郎、木挽親爺(小泉)れやな(東)婆れ熊(江見)

●廿五日 前場二月寄り十五圓八錢▲ ▲仁川米豆取引 ●廿四日 前場二月出來不申▲四月寄り十一圓二十錢▲後場…十五錢▲止同上

▲平民文壇▼

▲竹園町愛讀者に教ゆ 其小兒の出產時に取扱ふた產婆と出產せし家ゝ近時の人一名との三月何日に生れたと云ふ證明を貰ひ同時に左の如き醫師の診斷書を添へて民團の教育課へ差し出されよ當地では經驗がないが内地ではそれで入門が出來ました『體格檢査書何某何男何某右檢査を施すに滿七年の骨格を備ふる者と診斷候也年月日醫士何某印』(燒野雜造)▲大分春めいて來た鳥の囀りも鐘の音も日の光りも山の容も水の態も木の姿も何んとなく鬪つて來た如である一枚一瓢ブラ〳〵然としての散策に妙なるものも遠くはあるまい(への學)▲南大門驛車掌督某は殘酷な奴で十二月末自分へ歲暮だと云つて命令的に部下の給料より一日分宛の金を引去り近來又笛聲とか役にも立たない僅か五六錢の雜誌を每月三十錢に賣り付けて暴利を占て居るが彼れに相當制裁を加へて貰ひたい(新米)▲南部署の衛生係にた願ひします人夫が便所の汲み取り口を外し放して行きますドウカ嚴命して下さい(痔疾持)▲日の出町狩獵家田中樣に菅原生、過日は御無禮早速れ伺ひしたいが御宅の番地を忘れましたから恐縮ですが御一報下さいませんか(京城控訴院内へ)

▲仁川より

陽春の候と相成り一般の商況も幾分色めいて來た▲電話も愈々敷設する事本年は是非と當局者は語れり▲秋田穀が隅田川丸で上海地方に旅行した樣云ふて居たが▲同日は天眞樓に居つたげな▲竹田律三平と秋田とは提携旅行するな▲續或る新聞で報導したが同人は廿二日東上した相な▲仁川疑獄事件で拘引せられた加來、奥田、桑野等は兩三日前保釋願を其筋に提出したるも豫審の進捗に妨害あり何れも却下せられたと某氏語つて曰く該事件は玄の進動に伴ふ譯なれば只管扶命を待つ可しだと言つて居た▲近來市内の一等料理店が組合を安價で發賣し居る爲め遊郭組合では非常に憤慨し居る樣だ其筋の取締も

運勢

●二月廿六日 舊正月廿八日 丁卯 滅除 一白 不引
△一白 振袖類の運氣とす運退驅引諦愼の事旅行金談起業開店移轉婚姻凶△二黑 不和爭話論及保證引受事等の世話多き日なり新事業旅行婚姻計畫調停分離旅行移轉業す新事婚姻旅行移轉進んで吉△四綠 成就し日起業入學門開店婚姻旅行轉業移轉に吉不和葛藤を寛しむべし△五黃 紛爭盜害を戒しむ新事旅行婚姻相談計劃委囑効無し△六白 利益便宜ある日業務上有利の日不和衝突葛藤の端を醸す勿れ△七赤 親戚鄕家の事に煩累あらん他は有利望の日大抵進んで吉△八白 金談取引貸借賣買婚談尤も注意すべし新事旅行見合せの事△九紫 不如意の日万事謹愼の事起業開店旅行婚談凶農林業に進んで吉
●二月廿七日 舊正月廿九日 戊辰 大安
△一白 衰退の日新規旅行婚談見合せの事保證世話引受を禁ず運失防ぐべし△二黑 非運たり且つ機會利益を逸する事あり選失盜難共同連盟の事を戒しむ△三碧 疎漏過失多し其他總じて不得要領若くは徒勞多き日なり新事旅行婚談金談貸借難し△四綠 金品授受取引證劵協定協合の事故障起る△九とす新事旅行婚談に忌む他行事